

ラグビーフットボール (三)

廣島 美雄

(9) 主要規則

[A]「オフサイド」 Off-Side
競技者は競技中ボールより前に出て、競技することは出来ない、若し之を犯した場合は之を「オフサイド」と云つて反對側に「フリーキック」が與へられる、この際誰が如何なる方法で「フリーキック」しても構はない、「フリーキック」する場合は反則を犯した地點が其點から「タッチライン」に平行に後方に引き下つた任意の點より「フリーキック」するのである、而して相手方の「ゴールライン」の方向へなすなければならぬ、然し蹴者の側の「ゴールライン」の後方から蹴られるときはその「ゴールライン」を越えねばならぬ。敵の「インゴール」内に在りては「オフサイド」はあり得るが味方の「インゴール」内にては存在しない。(後に説明)

[B]「スローイン」グフオワード Throwing Forward.
「ボール」を自分より前方に投出したときは云ふ、之を犯したときは其場で「スクラム」が命ぜらる。

ラム」が命ぜらる。

[C]「バック、アップ」 Pickup
「スクラム」(密集)の中に在る「ボール」又は「タックル」されて「ダウン」した「ボール」或は「ヘルドボール」(後に説明す)を拾ひ上げる事は出来ぬ若し拾ひ上げた場合は「バックアップ」と云つて反對側に「フリーキック」が與へられる。

[D]「ナットストレイト」 Nat straight
①「タッチライン」に「ボール」が出たときは「ラインアウトブレイ」に依つて再び「ゲーム」が繼續されるのである、その際「ボール」が「タッチライン」と交つた地點に「タッチライン」と垂直に敵味方の「フオワード」が各一列に並び「ボール」はその兩列の中間に眞直に投げらるべきであるが誤つて何れかに曲つたときは「ナットストレイト」と云つて再びやり直すか、「タッチライン」から十「ヤード」離れた地點に於て「スクラム」を命ぜらる。

[E]「インターフェヤー」 Interfere
故意に「ボール」を持たぬ「プレイヤー」(競技者)に妨害した場合を云ふ、例へば「ボール」を持たぬ競技者に攻撃したり、或は相手方が起き上ることを、又は球を下に置くことを妨げたり、故意に脛を蹴つたり、脛を拂つたり、蹴かしたりすることを「インターフェヤー」と云ひ「フリーキック」の罰を命ずる若し此の脛を蹴つたり或は蹴かしたりする事が粗暴な競技を構成する場合は審判はなほ其の競技者に警告を與へ或は場合によつては退場を命ずべきである。

れる「ボール」は「スクラム」の中央眞直になされなければならぬのに曲つたときは「ナットストレイト」と云つて其場で投込んだ反對側に「フリーキック」を與ふ、よく注意せねばならぬ。

[F]「ノッキングオン」 Knocking-on
手又は腕、(下脚及足はこの限りに不非)で「ボール」を前方に打ち進めた場合を云ふ、このことに依つて相手が利益を得た場合を除いては審判官の考へてそれが故意でないと思へば其の「ボール」は此の反則の起つた場所へ戻されて其處で、「スクラマーチ」を命ぜらる。

[G]「ヘルドボール」 Held-Ball.
之は「ボール」を持つてゐる人が敵から「タックル」されて前進出来ない様にされてゐるにもかゝらず「ボール」を手からはなさず持ち

續けてゐるときを云ふ、其の中央眞直になされなければならぬのに曲つたときは「ナットストレイト」と云つて其場で投込んだ反對側に「フリーキック」を與ふ、よく注意せねばならぬ。

用語の解釋及それに関する規則

[1]「パッシング」 Passing
「パッシング」とは自分の後方若しくは自己と同列に在る味方に「ボール」を投渡するを言ふ、其の目的は敵に妨害されて進めないとき有利の地位に在る味方に「ボール」を渡して其人をして有利に活動せしむべきためである。

[2]「ドリフリング」 Driffling
「ドリフリング」とは膝から下の兩足及兩脛の内側によつて地に「ボール」を押し轉がし進む方法である。

[3]「タックル」 Tackle
「タックル」は「ボール」を保つ者が相手側の一人或はそれ以上の競技者によつて(掴つてゐる間は)球を「バス」することも出来ない様に掴まへられてゐるときをいふ。「タックル」された競技

者はその瞬間は「デッド」となつて「ボール」を「プレイ」する事の出来ないばかりか「ボール」を「ダウン」(地上に落)さねばならぬのである。

備考 競技者が球と共に「タックル」される時その球は足でのみ競技を繼續することが出来るしかし若し球を保持する競技者が投げ倒されたり或は打ち轉がされたり(「タックル」されたのでなく)して球が地に觸れた場合には、その競技者はなほ球を持つて起上り突進を續け或は「バス」すること許される。

[4]「スクラマーチ」 Scrummage(略して「スクラム」)
輕い反則が犯された際に双方の「フオワード」が集まつてがつしり密集して其の間に球を投げ入れて兩方押合ひ球を味方のものにしようとするものである、之を「タイトスクラム」(Tight Scrum)と稱す(この技術は後で詳細に説明しやう)。

[5]「タッチ」 (Touch)
競技場の兩側に接し、兩「ゴールライン」延長間の地域を「タッチ」といふ。「ボール」又は之を持つてゐる競技者が「タッチライン」に觸れるか或は「タッチ」へ出たときは審判官は笛を鳴して競技を一時中止せしめ「フオワード」の「ラインブレイ」によつて再び競技に移る。

「ボール」は「スクラム」の中央眞直になされなければならぬのに曲つたときは「ナットストレイト」と云つて其場で投込んだ反對側に「フリーキック」を與ふ、よく注意せねばならぬ。